

取扱説明書

保証書別添

日立LED照明器具

型式

LEC-AH1470K

LEC-AH1270K

LEC-AH1070K

LEC-AH870K



このたびは日立LED照明器具をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。

お読みになったあとは、保証書とともに大切に保存してください。

「安全上のご注意」→ (P.2)をお読みいただき、正しくお使いください。

工事店様へ

この説明書は、工事終了後、お客様にお渡しください。

HITACHI
Inspire the Next

もくじ

ご使用の前に

安全上のご注意	2
使用上のご注意	3
各部のなまえ・付属品	4

使いかた

取り付ける前に	5
開梱後の器具の取り出しかた	5
器具の取り付けかた	6
リモコンの準備	8
・リモコン	8
・乾電池の入れかた	9
・時計の合わせかた	9
点灯・消灯のしかた	10
・リモコンで操作する	10
・壁スイッチで操作する	10
調色・調光	11
・連続調色	11
・連続調光	11
明るさアップ	12
おこのみセレクト	12
節電モード	13
タイマー予約	14
留守番	15
おやすみ30・60分	16
チャンネルの設定	17
器具の取り外しかた	18

お手入れ

お手入れ	19
------	----

お困りのときは

お困りのときは	20
仕様	21
保証とアフターサービス	22

安全上のご注意(必ずお守りください)

お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、お守りいただくことを、次のように説明しています。また、本文中の注意事項についてもよくお読みのうえ、正しくお使いください。

■ここに示した注意事項は

表示内容を無視して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

危害や損害とその程度の区分



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことが想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される」内容です。

絵表示の例



「警告や注意を促す」内容のものです。



してはいけない「禁止」内容のものです。



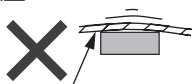
実行していただく「指示」内容のものです。

警告



このような場所には取り付けない
※器具の落下によるけがの原因となります。

禁止



押すと簡単にたわむ
補強のない天井



ケースウェイ取り付け形
ローゼット、シーリングボディ



傾斜天井



舟底天井



竿縁天井



格子天井

※竿縁天井は、別売りのアダプタRCA01を併用することで取り付け可能となる場合があります。→(P.7)



禁止

- 器具の分解や改造、構成部品の交換はしない
※火災・感電・故障の原因となります。
- 器具のすきまやコネクタに金属類(ヘアピン・針金など)を差し込まない
※感電・故障の原因となります。



このような配線器具には取り付けない
※火災・感電・器具の落下によるけがの原因となります。

禁止



欠け 割れ
破損しているもの



ガタつくもの



19mm未満
使用不可



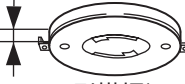
角形・丸形
引掛シーリング



電源が露出して
いるもの



10mm未満
使用不可



引掛埋込
ローゼット

このような場合は、
電気工事店に依頼して
配線器具を交換してく
ださい。

注意

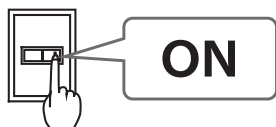
- 定格電圧 交流100V以外で使用しない
※過熱し、火災の原因となります。
- 浴室などの湿気の多い場所や、常時温度の高い場所(35℃以上)では使用しない
※絶縁性能が低下し、火災・感電の原因となります。
- 調光器では使用しない(100%点灯でも使用不可)
※過熱し、火災の原因となります。
- 取り付け、取り外し、お手入れの際は電源(壁スイッチまたはブレーカ)を切る
※電源を切らないと感電の原因となります。
- 器具の真下にストーブなどを置かない
※過熱し、火災の原因となります。
- 屋外で使用しない(この器具は屋内専用です)
※火災・感電の原因となります。
- 点灯中および消灯直後は、器具が熱くなっているので触らない
※やけどの原因となります。
- 器具にボールなどの物をぶついたり、衝撃を与えない
※器具の落下によるけがの原因になります。
- カバーを外して、点灯しているLED光源を直視しない
※目を傷めたり、目に悪影響を及ぼすおそれがあります。
- 照明器具には寿命があります。設置して8~10年経つと、外観に異常がなくても内部の劣化が進行しています。点検・交換をお勧めします。点検せずに長時間使い続けると、まれに、発煙、発火、感電などに至るおそれがあります。

使用上のご注意

- 山間部や鉄筋建物など、電波の弱い地域では、ラジオや屋内アンテナ使用のテレビに影響する場合があります。このような場合は、ラジオや屋内アンテナを器具から離してお使いください。
- 器具の近くでは、ラジオやテレビに雑音が入ったり、他の家電品の赤外線リモコンが作動しない場合があります。このような場合は、ラジオやテレビ、他の家電品を器具から離してお使いください。
- 短い停電や電圧の低下などにより、点灯状態が切り替わる場合があります。
長時間、器具を使用しない場合は電源(壁スイッチまたはブレーカ)を切ることをおすすめします。
ブレーカを切る場合、同一ブレーカに接続されている他の機器の電源も同時に切れますので、ご注意ください。
- LED光源のみの交換はできません。交換の際は器具ごと交換してください。
- LED素子は製造上、発光色、明るさにバラツキがあります。そのため、同一型式商品でも商品ごとに発光色、明るさが異なる、またはムラが生じる場合があります。
- 天井の材質や構造によって、器具取り付け天井面が変色する場合があります。
- 温泉地などの腐食性ガスが発生する場所での使用はお避けください。光学特性などに不具合が発生することがあります。
- 器具部品の伸縮により、点灯中や消灯直後にきしみ音が発生する場合があります。
- カメラまたはビデオカメラで器具を撮影すると、モニターや撮影画像に線や模様が入ることがあります。

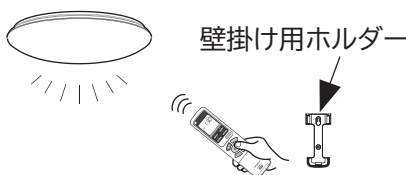
リモコン使用上のご注意

- 壁スイッチはONにしてご使用ください。



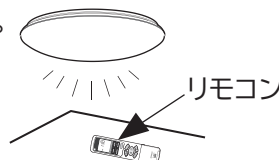
壁スイッチはONにする

- リモコンは壁掛け用ホルダーから取り出して、器具に向けて操作してください。



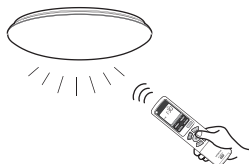
器具に向けて操作する

- 「タイマー予約」・「留守番」で使用する場合は、リモコンを器具の真下付近に置いて、ご使用ください。
また、リモコンを置く場所から器具が作動するか確認してください。



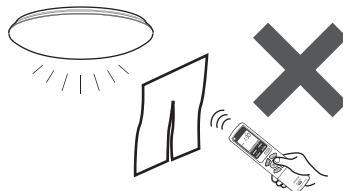
器具の真下付近に置く

- 周囲の環境条件、天井・壁・床の色や材質などにより、リモコンが操作しにくい場合があります。その場合は、器具に近づけてリモコン操作をしてください。



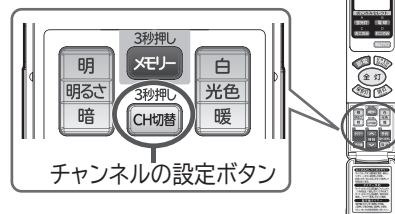
器具に近づけて操作する

- リモコンと器具の間にしゃへい物があると器具が作動しない場合があります。その場合は、しゃへい物を避けてリモコン操作をしてください。



しゃへい物を避ける

- 器具とリモコンのチャンネルを合わせて操作してください。「チャンネルの設定」をご参照ください。→ (P.17)



チャンネルを合わせる

- 温度が高くなる物の上や湿気の多い場所でのご使用や、水にぬらしたりしないでください。また、リモコンを落としたり衝撃を与えたりしないでください。変形や故障の原因となります。
- 乾電池の残量が少なくなってくると表示画面が点滅を始めますので、乾電池を交換してください。
また、表示画面が消えてから乾電池を交換した場合、時刻表示および予約内容は工場出荷時の状態に戻りますので、設定し直してください。

各部のなまえ・付属品

●P.4、P.8の図を参照して、各部品をお確かめください。
※図は取り扱い方法を説明するための、簡略図になっています。

配線器具（角形引掛
シーリングなど）は
付属しておりません。

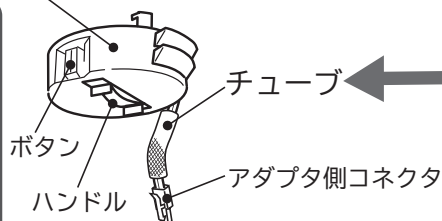


アダプタ（補修用部品番号：FU-403）



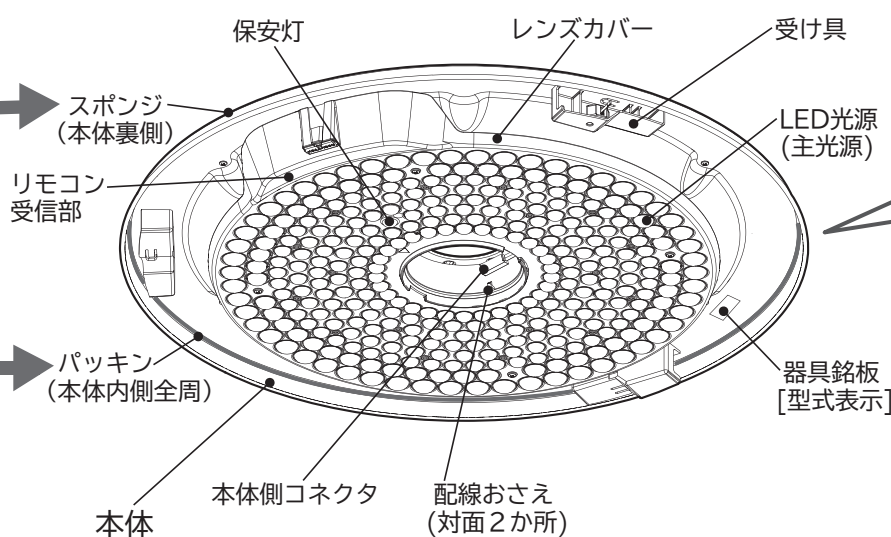
●本体裏側のスポンジやパッキンをはがさない

※器具のガタつきや
回転防止、防虫の
ためです。

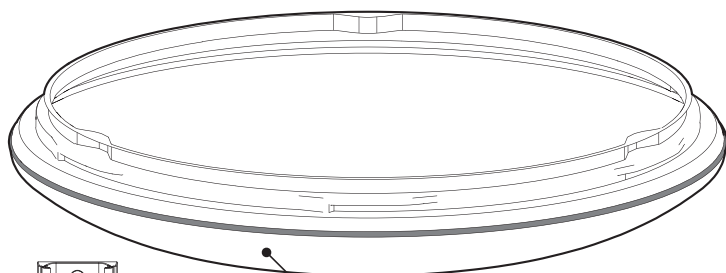


●チューブをはずさない

※万一、コネクタ部から発火
した際の延焼防止です。



リモコン（補修用部品番号：FU-487）



カバー（補修用部品番号：FU-491）

※LEC-AH870K用カバー（補修用部品番号：FU-492）

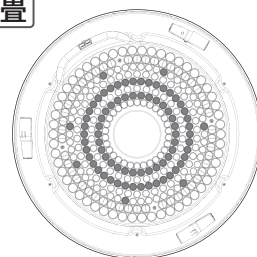
壁掛け用ホルダー
（補修用部品番号：FU-412）

●LEDの数およびレンズカバーの
形状は、適用畳数により異なり
ます。

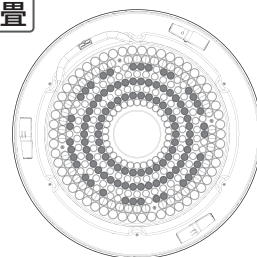
タイプ (畳)	LED数(保安灯は除く)
	昼光色+電球色
14	252
12	224
10	193
8	181

●LEDの付いてないレンズの数と
位置は、適用畳数により異なり
ます。

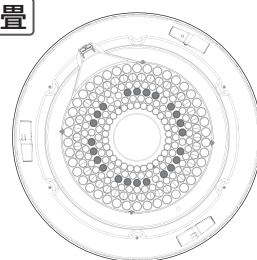
14畳



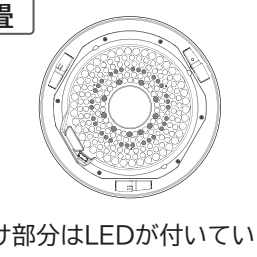
12畳



10畳



8畳

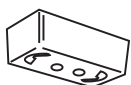


（網かけ部分はLEDが付いていません）

取り付ける前に

- 天井にこのような配線器具がついている場合は、電気工事なしで器具が取り付けられます。
ただし、このような配線器具でも取り付けてはいけないものがあります。

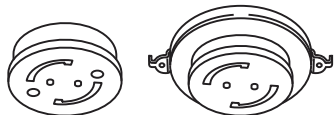
→ (P.2)「⚠警告 このような配線器具には取り付けない」



角形・丸形引掛シーリング



引掛埋込ローゼット



高荷重形引掛シーリング・ローゼット



必ず守る

- 天井に配線器具が付いていない場合は、電気工事店(有資格者)に取り付け工事を依頼する
※工事には資格が必要です。

開梱後の器具の取り出しかた

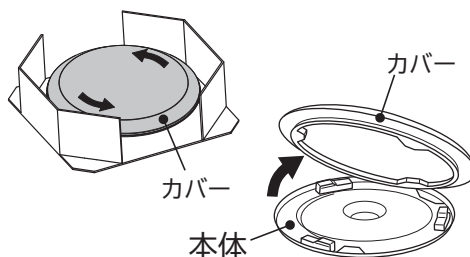
器具は包装用部品に固定されていますので、下記に従い取り出してください。
無理に外すと器具部品の破損などの原因となります。

1

カバーを本体から外す

カバーを左に回し、ゆっくりと
カバーを持ち上げる

※無理に外すとカバー破損の恐れ
があります。



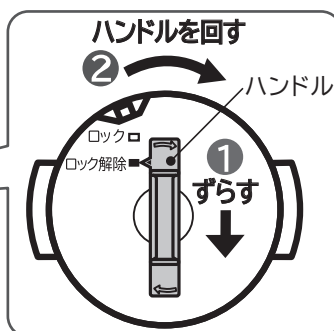
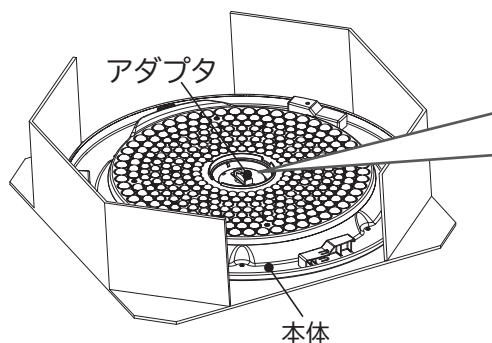
2

本体を外す

① アダプタのハンドルを「ロック解除」の位置にずらす

② アダプタをつかみ、ハンドルを右に回してアダプタと本体を取り出す

※アダプタが本体の奥に入って取れないときは、本体を取り出したあと、
包装用部品の裏側などからアダプタを取り出してください。

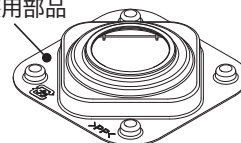


ご注意

この部品は、包装用部品です。
器具の取り付けには使用しません。

※廃棄するときは、プラスチックごみとして分別廃棄
してください。

包装用部品



器具の取り付けかた

1

電源(壁スイッチまたはブレーカ)を切る

※ブレーカを切る場合、同一ブレーカに接続されている他の機器の電源も同時に切れますので、ご注意ください。

※複数台の器具を取り付ける場合は、取り付けとチャンネル設定を1台ずつ行なうとチャンネル設定を確実にこなえます。→ (P.17)



必ず守る

●器具の取り付けの際は、**電源を切る**

※電源を切らないと、感電の原因となります。
また、コネクタ差し込み時にLEDが点灯して目を傷めるおそれがあります。

2

配線器具にアダプタを取り付ける

- ① アダプタのハンドルが「ロック解除」の位置になっていることを確認する
なっていない場合は、「ロック解除」の位置にずらす

ハンドルの「◀」マークが「ロック解除」の位置

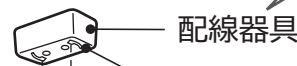
① ずらす



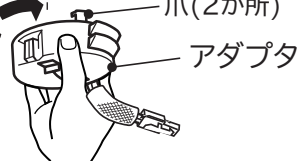
- ② 配線器具(角形引掛シーリングなど)の溝にアダプタの爪を入れる

※必ず同梱しているアダプタを使用してください。

② 入れる



③ 右回し



- ③ 右方向にいっぱいまで回す
●ロックが掛かり固定されます。



禁止

●チューブをはずさない

※万一、コネクタ部から発火した際の延焼防止です。



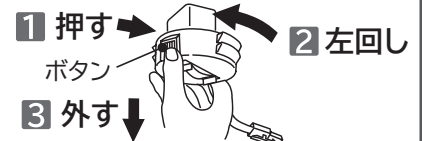
必ず守る

●取り付け後、ボタンを押さずに左方向に回し、外れないことを確認する

※取り付けが不完全な場合、器具の落下によるけがの原因となります。

アダプタを取り外す場合は

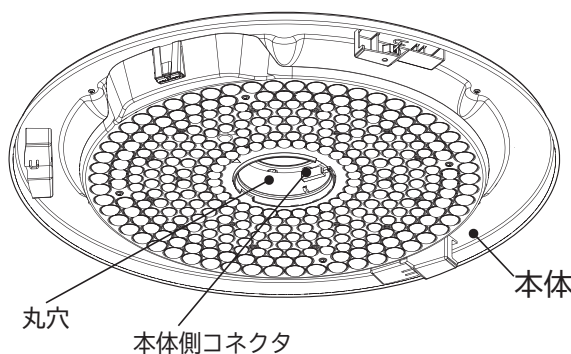
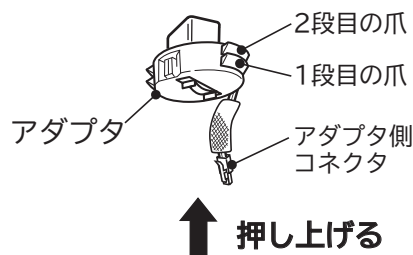
- ボタンを押しながら、左方向へ回してください。



3

アダプタに本体を取り付ける

本体を両手で持ち、アダプタ側コネクタを本体の丸穴に通しながら、アダプタの1段目の爪または2段目の爪(両側2か所)に掛かるまで押し上げる

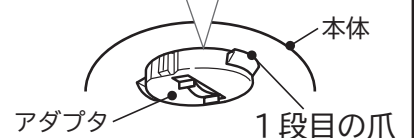
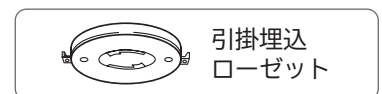
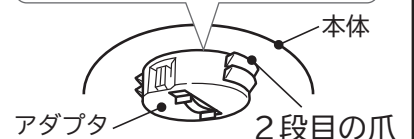
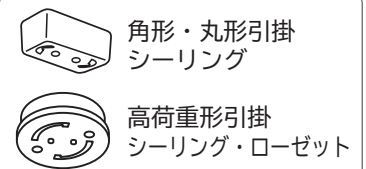


必ず守る

●本体に掛かる爪の位置が配線器具で変わります

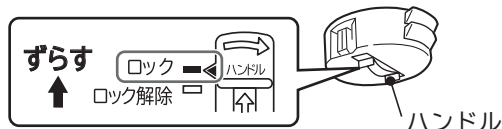
下図を参照し、適切な爪(両側2か所)が本体に掛かっていることを確認する

※取り付けが不完全な場合、器具の落下によるけがの原因となります。



4

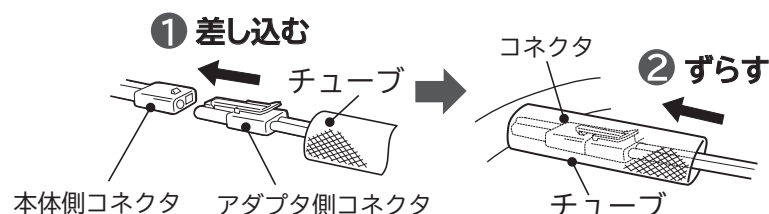
ハンドルを「ロック」の位置にずらす



5

コネクタを接続する

- ① アダプタ側コネクタと本体側コネクタを確実に差し込む
- ② チューブをずらしてコネクタをおおう



禁止

●コネクタや電線を無理に引っばらない

※電線が断線し、感電、故障の原因となります。



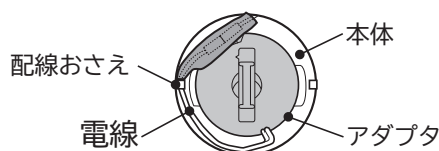
注意

●アダプタのチューブをずらしてコネクタを確実にこお

※万一、コネクタ部から発火した際の延焼防止です。

6

アダプタ側の電線を、配線おさえに引っ掛ける



禁止

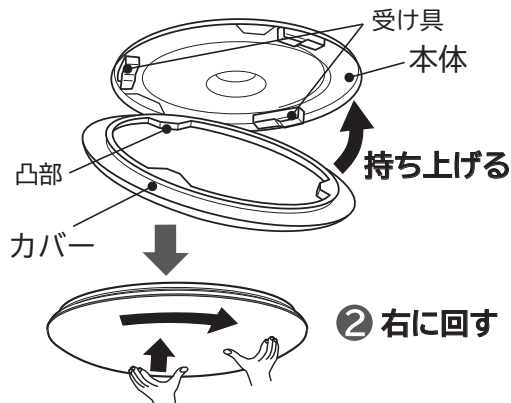
●コネクタや電線を無理に引っばらない

※電線が断線し、感電、故障の原因となります。

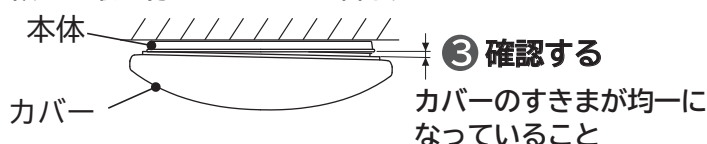
7

カバーを本体に取り付ける

- ① 本体の受け具横にカバーの凸部を合わせ、本体内側にカバーをあてて、カバーを持ち上げる
- ② カバーを押し上げながら、「カチン」と音がして止まるまで右に回す



- ③ カバーが傾いて取り付けしていないか確認する



必ず守る

●取り付け後、カバーを軽く下に引っばり、外れないことを確認する

※取り付けが不完全な場合、器具の落下によるけがの原因となります。



禁止

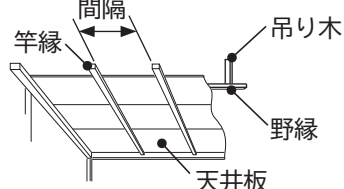
●カバーを正しく取り付け後は、カバーを無理に回さない

※器具の破損、落下によるけがの原因となります。

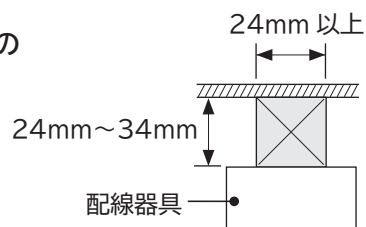
※竿縁天井は別売りの竿縁天井用シーリングアダプタRCA01を併用することで使用可能となる場合があります。

竿縁天井に取り付けられる条件

- 竿縁の間隔が 250mm 以上である
- 竿縁が天井裏で補強されている



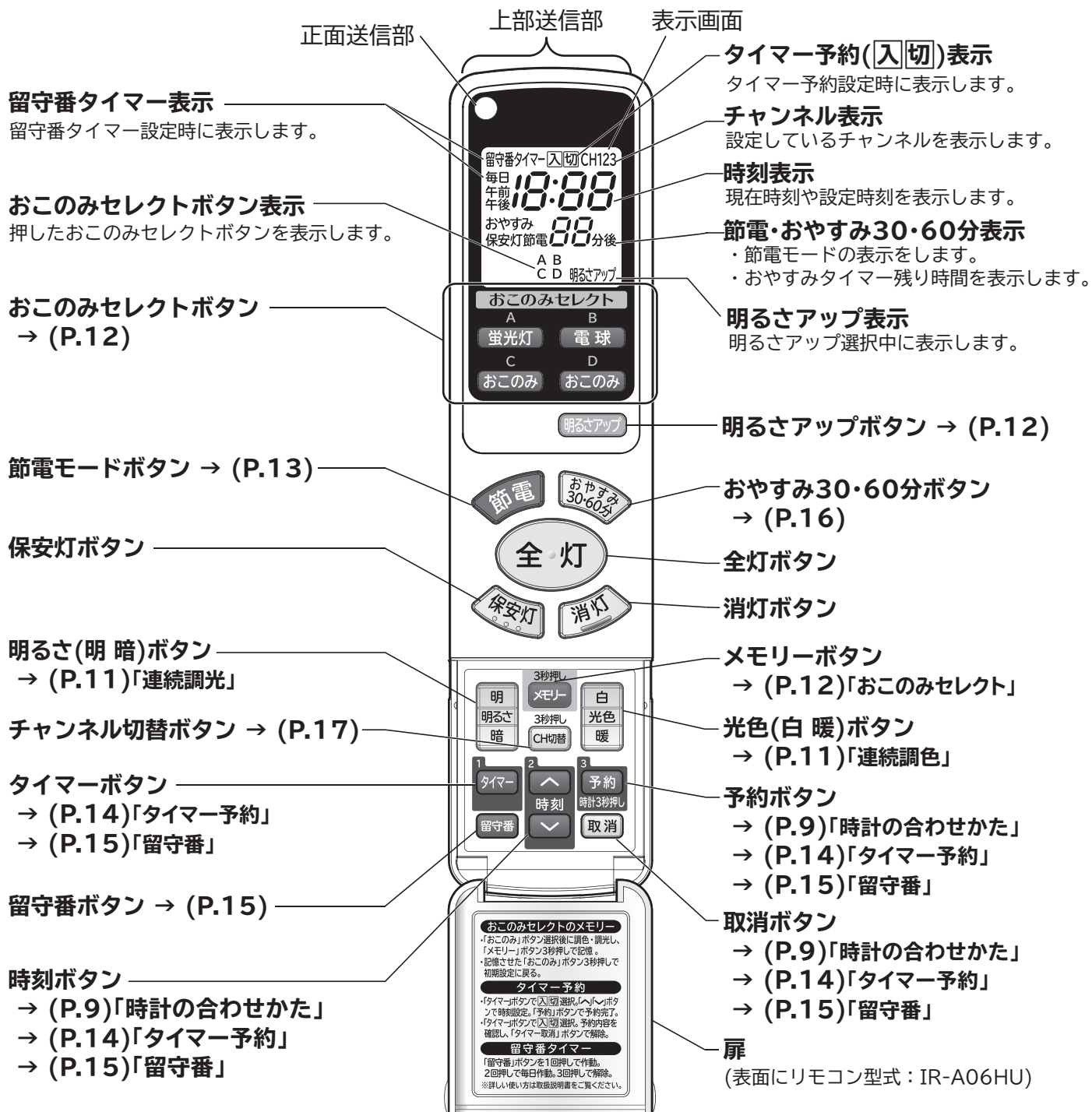
- 竿縁の高さが右記の範囲内である



リモコンの準備

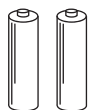
リモコン (型式：IR-A06HU/補修用部品番号：FU-487)

操作ボタンを押すとリモコン送信部からの信号が本体に入り、本体から電子音が「ピッ」と鳴り受信をお知らせします。操作ボタンを押しても点灯状態が変わらないときは、電子音が「ピピッ」と鳴ります。

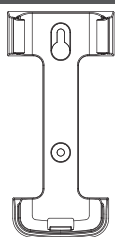


(表面にリモコン型式：IR-A06HU)

付属品



単3形乾電池
1.5V×2本



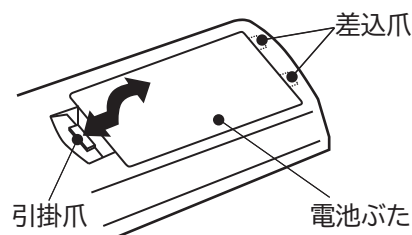
壁掛け用ホルダー
(補修用部品番号：FU-412)



木ねじ
(2本)

乾電池の入れかた

- 1 リモコン裏面の電池ぶたの引掛爪を外して、電池ぶたを取り外す
- 2 付属の単3形乾電池を $\oplus \ominus$ の表示に合わせて入れる
- 3 電池ぶたの差込爪をリモコンに差し込み、引掛爪を「パチン」と音がするまで入れて取り付ける



乾電池について

- 乾電池を誤って使うと液もれや破裂の危険があります。乾電池の注意文をよく読み、注意してご使用ください。
 - ・電池の液が目に入った場合は、すぐに水道水などのきれいな水で洗い流し、医師の治療を受けること。
 - ・発熱、液もれ、破裂、機器破損のおそれがあるので、 $\oplus \ominus$ 逆接続、ショート、分解、新旧電池や銘柄の違う電池・異種電池の混用、充電、加熱、火に入れるなどしないこと。
 - ・電池の液が、皮ふや衣類に付着した場合には水で洗い流すこと。
- 液もれによる故障の原因となるので、長時間使用しない場合は乾電池を取り外しておいてください。
- リモコンの乾電池は、約半年を目安に交換してください。
- 付属の乾電池は、リモコン操作確認用として同梱していますので、使える期間が短い場合があります。

時計の合わせかた

- 時計は室温により、1か月に約3分程ずれることがあります。以下の手順で現在時刻を合わせてください。

- 1 リモコンの扉を開け、時刻表示が点滅するまで、**予約** ボタンを約3秒間、長押しする
 - 初めて乾電池を入れたときは「午前0:00」が点滅しています。そのまま手順 2 に進んでください。



- 2 **時刻** ボタンで現在時刻を設定する
 - ボタンを1回押すごとに1分刻みで時刻が変わります。
 - ボタンを押し続けると10分刻みで時刻が変わります。

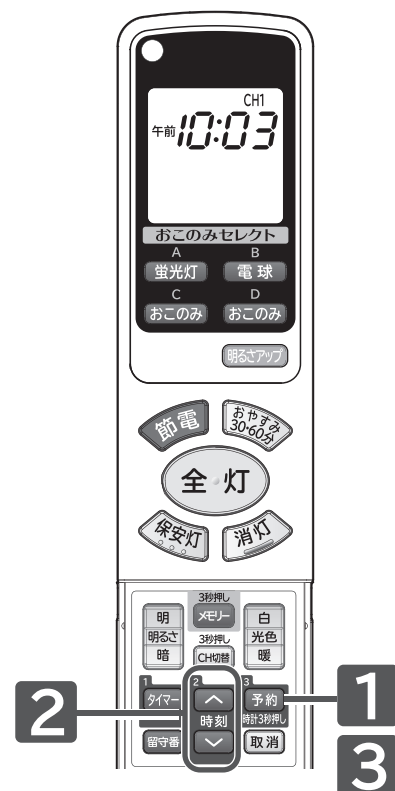


- 3 **予約** ボタンを押す
 - 「:」だけが点滅し、設定が完了します。



※設定を途中でやめたいときは **取消** ボタンを押してください。

また、約1分間操作がない場合は時刻設定を終了します。
このとき、設定途中の時刻は登録されません。
(初めて乾電池を入れたときは「午前0:01」に設定されます)



点灯・消灯のしかた

リモコンで操作する

壁スイッチをONにして、リモコンを器具に向けて、操作します。

※器具を取り付ける際にブレーカを切った場合にはブレーカを入れてください。

点灯するとき

全灯 ボタン、明るさアップ ボタン、節電 ボタン、「おこのみセレクト」ボタン、保安灯 ボタンのいずれかを押します。

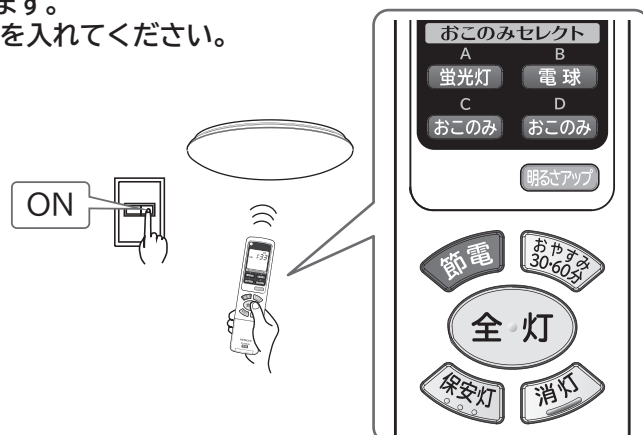
消灯するとき

消灯 ボタンを押します。

器具の電子音を消すとき(解除も同一操作)

点灯状態の場合は、リモコンで消灯してから次の操作をしてください。

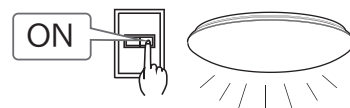
●壁スイッチがONの状態ですべてのボタンを約10秒間長押ししてください。



壁スイッチで操作する

点灯するとき

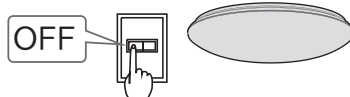
壁スイッチをONにします。



消灯するとき

壁スイッチをOFFにします。

●壁スイッチをOFFにしてから2秒以上経過した後に、壁スイッチをONにすると、壁スイッチをOFFにする前、またはリモコンで消灯する前の点灯状態になります。



点灯状態を切り替えるとき

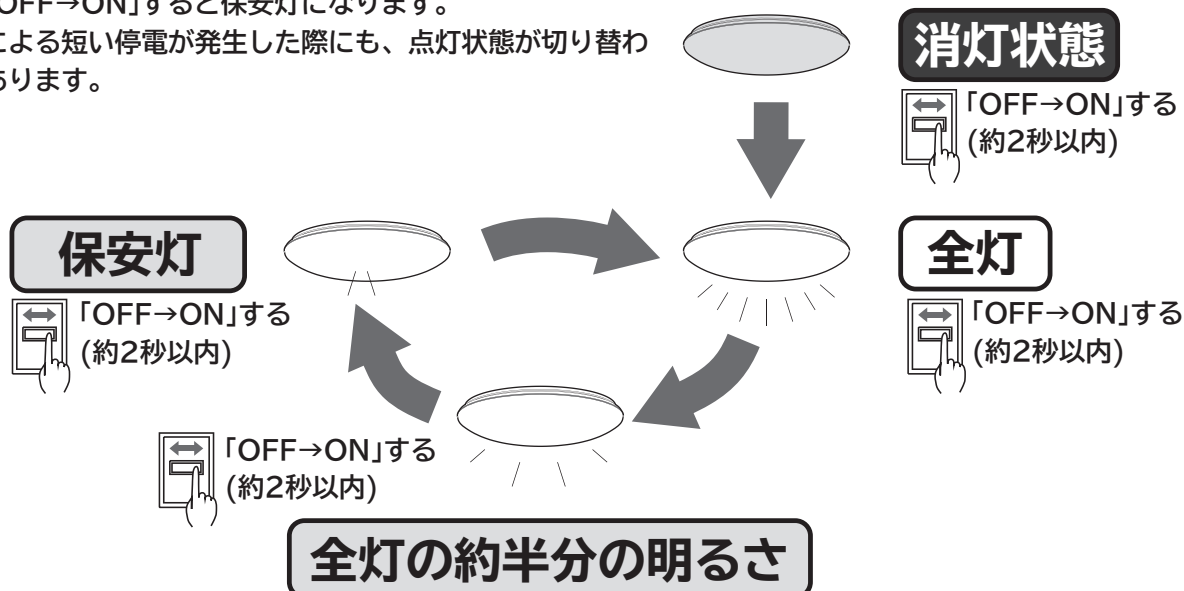
壁スイッチがONの状態ですべてのボタンを約2秒以内を目安に「OFF→ON」することで器具の点灯状態を切り替えることができます。

※1個の壁スイッチで2台以上の器具を使用すると、点灯状態が同時に切り替わらない場合があります。

※2秒を超えた場合は検知しないので、点灯状態の切り替えはできません。

※「おこのみセレクト」ボタン、節電 ボタン、白 光色 暖 ボタン、明 明るさ 暗 ボタンで明かりを調節した点灯状態から、約2秒以内を目安に「OFF→ON」すると保安灯になります。

※落雷などによる短い停電が発生した際にも、点灯状態が切り替わる場合があります。



調色・調光

壁スイッチは ON にして、
リモコンは器具に向けて操作してください

※明るさアップでお使いのときは、調節できません。

連続調色

光の色を調節できます。

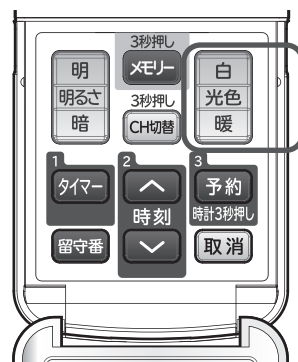
●主光源を昼光色に近い白い色から電球色に近い暖かみのある色まで光の色を調節できます。



調節のしかた

リモコンの扉を開け、点灯している状態で  ボタンを押す

●操作ボタンを押しても点灯状態が変わらないときは、電子音が「ピピッ」と鳴ります。また、ボタンを1回ずつ押して一段階ずつ光色を変化させると、白と暖の中間の光色になったときに電子音が「ピピッ」と鳴ります。
(押し続けて連続的に変化させた場合は鳴りません)



連続調光

主光源・保安灯の明るさを100%(明)～約5%(暗)の範囲で調節できます。



調節のしかた

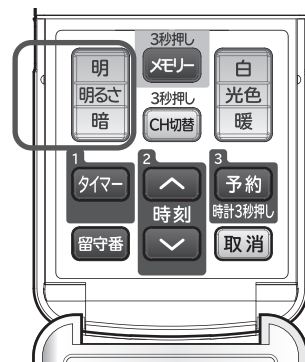
リモコンの扉を開け、点灯している状態で  ボタンを押す

●操作ボタンを押しても点灯状態が変わらないときは、電子音が「ピピッ」と鳴ります。

また、全灯など、白と暖の中間の光色になっているときに、ボタンを1回ずつ押して一段階ずつ明るさを変化させると、全灯の約半分の明るさになったときに電子音が「ピピッ」と鳴ります。

(押し続けて連続的に変化させた場合は鳴りません)

※光色を調節している場合は、調節した光色での上限、下限になります。



明るさアップ

壁スイッチはONにして、
リモコンは器具に向けて操作してください

「明るさアップ」ボタンを押すだけで、全灯の1.2倍の明るさで点灯します。

明るさアップの使いかた

明るさアップ ボタンを押す

- 表示画面に「明るさアップ」と表示します。



解除のしかた

明るさアップ ボタンを押す

- 「明るさアップ」の表示が消え、元のあかりに戻ります。
- **全灯**、**消灯**、**保安灯**、**おこのみセレクト**、**節電**のいずれかのボタンを押すと、押したボタンの点灯状態になります。



おこのみセレクト

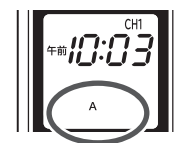
おこのみセレクトは、「蛍光灯のあかり(A)」「電球のあかり(B)」の設定された2つのあかりと自分で調節したお好みのあかりを「おこのみ(C, D)」に2つ登録できます。

おこのみセレクトの使いかた

1 お好みのボタンを押す



※ 例： **蛍光灯** を押した場合



- 表示画面に選んだあかりがA、B、C、Dで表示がされます。

2 「おこのみ(C, D)」にお好みのあかりを記憶したいとき

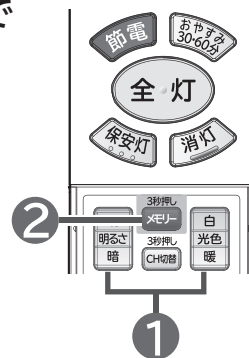
① 「おこのみ(C)」または「おこのみ(D)」で点灯してからリモコンの扉を開け、

白、**明**、**光色**、**明るさ**、**暖**、**暗** ボタンでお好みのあかりに調節する

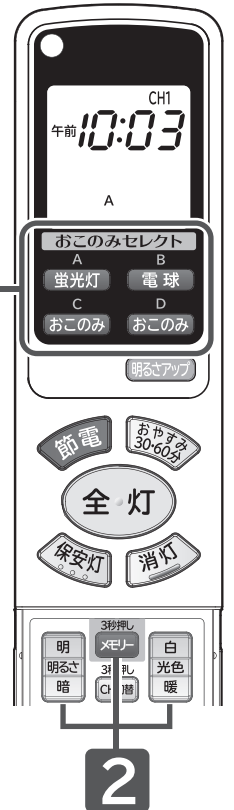
- 調節は「調色・調光」をご参照ください。→ (P.11)

② **メモリー** ボタンを約3秒間長押しする

- 器具から「ピッ」と音がして、記憶します。次からは、この記憶した「おこのみ」ボタンを押せば、お好みのあかりで点灯します。



1



2

記憶を解除したいとき

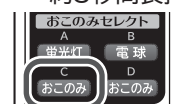
記憶を元に戻したい「おこのみ」ボタンを約3秒間長押しする

- 器具から「ピピッ」と音がして、工場出荷時の状態に戻ります。

工場出荷時の状態

「おこのみ(C)」…「全灯」と「蛍光灯のあかり」の中間に調色されたあかりで点灯します。
「おこのみ(D)」…「全灯」と「電球のあかり」の中間に調色されたあかりで点灯します。

※ 例： **おこのみ** を約3秒間長押し



節電モード

壁スイッチは ON にして、
リモコンは器具に向けて操作してください

全灯、明るさアップでお使いのとき

節電モードは、全灯、明るさアップでお使いのときは適用畳数(下図参照)の明るさ基準の範囲で、明るさを2段階に調光して節電します。

●節電1：適用畳数の中央の明るさになります。

●節電2：適用畳数の下限の明るさになります。

※明るさアップでお使いのときは、明るさアップ状態が解除され、全灯になってから減光されます。



「適用畳数」の表示基準 ^{注1} と日立の明るさ						型式		節電 2	節電 1	全灯
		節電2 下限の明るさ	節電1 中央の明るさ	全灯 最大限の明るさ						
~14 畳		5,100lm以上	6,100lm未満			LEC-AH1470K	明るさ (lm)	5,100	5,600	6,099
							消費電力 (W)	32.1	35.2	38.3
~12 畳		4,500lm以上	5,500lm未満			LEC-AH1270K	明るさ (lm)	4,500	5,000	5,499
							消費電力 (W)	28.5	31.6	34.8
~10 畳		3,900lm以上	4,900lm未満		工業会基準	LEC-AH1070K	明るさ (lm)	3,900	4,400	4,899
							消費電力 (W)	25.2	28.3	31.4
~8 畳		3,300lm以上	4,300lm未満			LEC-AH870K	明るさ (lm)	3,300	3,800	4,299
							消費電力 (W)	20.9	23.9	27.0

3,000 4,000 5,000 6,000 7,000 8,000 (lm)

適用畳数の表示基準^{注1}

●適用畳数は、部屋中央に1灯使用した場合の床面における水平面照度が75~150lx(ルクス)確保できる部屋の広さを畳数で表したものです。

注1 (一社)日本照明工業会の定める「住宅用カタログにおける適用畳数表示基準」(ガイドA121:2014)による。

全灯、明るさアップ以外でお使いのとき

節電1 で約15%明るさを抑え、節電2 で約30%明るさを抑えた節電をします。

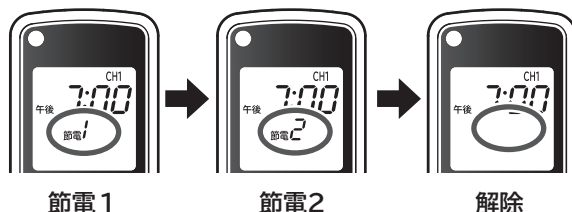
(光の色は変わりません)

設定のしかた

節電 ボタンを押す

節電 ボタンを押すごとに「節電1」「節電2」「解除」と表示画面が切り替わります。

※明るさアップでお使いのときは、明るさアップ状態が解除されます。



解除のしかた

全灯、消灯、保安灯、白/光色、明/明るさ、暗、
「おこのみセレクト」、明るさアップ

のいずれかのボタンを押す

●押したボタンの通常の点灯状態になります。

タイマー予約

壁スイッチは ON にして、
リモコンは器具に向けて操作してください

- タイマー予約は、「点灯」、「消灯」、「点灯および消灯」のタイマー予約ができます。また、「点灯」は消灯前の明かりで点灯します。
- 保安灯、明るさアップ点灯状態をタイマーで点灯させることはできません。
- ※留守番とは別の時刻設定ができます。→(P.15)「留守番」
- ※現在時刻が正しくないときは修正してください。→(P.9)「時計の合わせかた」

タイマー予約の設定のしかた

※約10秒間操作がない場合は、現在時刻表示に戻ります。このとき、設定途中の時刻は登録されません。
※設定を途中でやめたいときは **取消** ボタンを押してください。このとき、設定途中の時刻は登録されません。

1 「留守番タイマー」が表示されていないことを確認し、リモコンの扉を開け、現在時刻画面で **タイマー** ボタンを押す

- タイマー** ボタンを押すごとに、「タイマー **入**」→「タイマー **切**」→現在時刻画面に戻る、と表示画面が切り替わります。設定したい表示にしてください。

「タイマー **入**」表示

「タイマー **切**」表示

現在時刻表示に戻る



※工場出荷時は、タイマー **入**「午後6:00」、タイマー **切**「午後10:00」に設定されています。

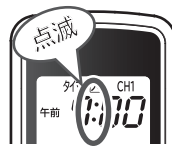
2 **時刻** ボタンで時刻を設定する

- ボタンを1回押すごとに10分刻みで時刻が変わります。
- ボタンを押し続けると1時間刻みで時刻が変わります。



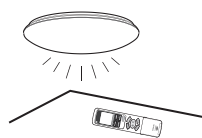
3 **予約** ボタンを押す

- 時刻の点滅が止まり、現在時刻表示画面に戻り、タイマー予約の設定が完了します。
- 予約中は「タイマー **入**」や「タイマー **切**」が表示されます。また、表示をしていれば毎日実行します。



4 リモコンの扉を閉め、器具の真下付近に置く

- リモコンを置く場所から器具が作動するか確認してください。



タイマー予約時刻の変更、予約内容の確認をする場合も、上記の手順で操作してください。

タイマー予約の取り消し

※約10秒間操作がない場合は、現在時刻表示に戻ります。

1 リモコンの扉を開け、現在時刻表示で **タイマー** ボタンを押して、取り消したいタイマー予約を表示する

- タイマー** ボタンを押すごとに、表示画面が切り替わります。

※例

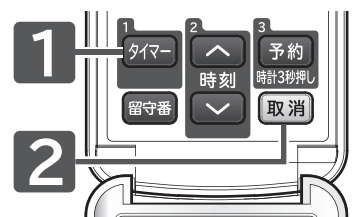
「タイマー **切**」表示



2 **取消** ボタンを押す

- 表示したタイマー予約が解除されます。現在時刻表示画面に戻り、予約中を示す「タイマー **入**」や「タイマー **切**」の表示が消えれば取り消しが完了します。

「現在時刻表示」に戻る



留守番

壁スイッチは ON にして、
リモコンは器具に向けて操作してください

※留守番で「自動点灯・自動消灯」ができます。また、「自動点灯」は消灯前の明かりで点灯します。

※保安灯、明るさアップ点灯状態を自動点灯させることはできません。

●タイマー予約とは別の時刻設定ができます。→(P.14)「タイマー予約」

●現在時刻が正しくないときは修正してください。→(P.9)「時計の合わせかた」

留守番設定のしかたと設定内容の確認

※約10秒間操作がない場合は、現在時刻表示に戻ります。このとき、設定途中の時刻は登録されません。

※設定を途中でやめたいときは **取消** ボタンを押してください。このとき、設定途中の時刻は登録されません。

1

「留守番タイマー」が表示されていないことを確認し、
リモコンの扉を開け、現在時刻画面で **留守番** ボタンを1回押す

●「留守番タイマー入」、「留守番タイマー切」が設定内容(時刻)とともに、交互に2回ずつ表示されて約8秒後に現在時刻画面に戻り、「留守番タイマー」が表示されて設定を完了します。

留守番タイマーを1回(点灯1回→消灯1回)実行します。

※留守番タイマー設定後、切の時刻が最初に来る場合は消灯→点灯→消灯の動作を実行します。

留守番タイマー入 切 時刻を交互に2回ずつ表示

現在時刻表示に戻り、設定完了



※工場出荷時は、**入**(点灯)「午後6:00」、**切**(消灯)「午後10:00」に設定されています。

2

留守番の時刻変更

1 「留守番タイマー」が表示されている状態で、
タイマー ボタンを押す

● **タイマー** ボタンを押すごとに、「留守番タイマー入」→「留守番タイマー切」→現在時刻画面に戻る、と表示画面が切り替わります。変更したい表示にしてください。

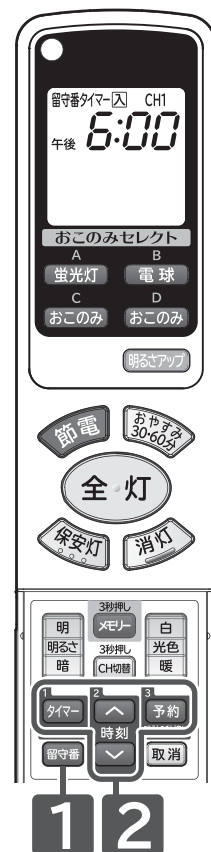
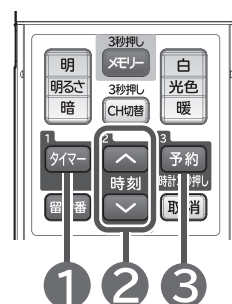
2 **時刻** ボタンで時刻を設定する

● ボタンを1回押すごとに10分刻みで時刻が変わります。

● ボタンを押し続けると1時間刻みで時刻が変わります。

3 **予約** ボタンを押す

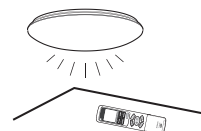
● 時刻の点滅が止まり、現在時刻表示に戻り、時刻設定が完了します。



3

リモコンの扉を閉め、器具の真下付近に置く

● リモコンを置く場所から器具が作動するか確認してください。



留守番の解除のしかた

留守番 ボタンを繰り返し押し、
「留守番タイマー」の表示を消す

● 「留守番タイマー」表示が画面から消えて解除されます。

現在時刻表示で

「留守番タイマー」「毎日」表示

表示無し



留守番を毎日実行する

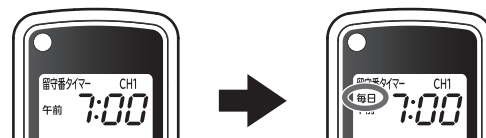
留守番 ボタンを繰り返し押し、「毎日」を
表示をさせる

● 「毎日」が表示され毎日実行します。

現在時刻表示で

「留守番タイマー」が表示

「毎日」表示



留守番 ボタンを押すごとに、「1回」→「毎日」→「解除」と切り替わります。

おやすみ30・60分

壁スイッチは ON にして、
リモコンは器具に向けて操作してください

おやすみ30・60分で、30分後または60分後に自動消灯、または保安灯へ自動点灯します。
設定後は、自動消灯または保安灯へ自動点灯するまでの残り時間も表示します。

設定のしかた

リモコンを器具に向け  ボタンを押す

-  ボタンを3秒以内に押すごとに設定を選択できます。
設定したい表示で本体から「ピッ」と電子音が鳴れば設定を完了します。



解除のしかた

設定後、3秒以上たってからリモコンを器具に向けて、

 ボタンを押す

- 本体から「ピピッ」と電子音が鳴って、表示画面から表示が消えて解除されます。



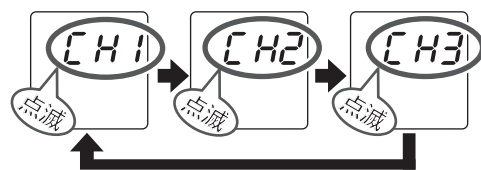
チャンネルの設定

壁スイッチはONにして、
リモコンは器具に向けて操作してください

※器具は出荷時の状態で、ご使用いただけます。

お部屋でご使用になる照明器具の台数に応じ、チャンネルを設定してください。

- リモコンの表示画面にあるチャンネル表示は **CH切替** ボタンを長押しすることで、約3秒経過ごとに切り替わります。
- 設定したいチャンネルが表示されているときに **CH切替** ボタンを離すことで、リモコンのチャンネル設定が完了します。
- 器具にリモコンを向け、**全 灯** ボタンを約3秒間、長押しすると器具から電子音が「ピピッ」と鳴り、器具のチャンネル設定が完了します。



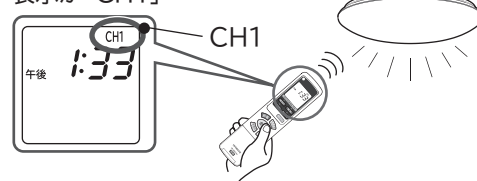
1台のリモコンで1台の器具を操作する場合

リモコンをチャンネル1に合わせて操作します。

※出荷時は、チャンネル1に設定しています。

リモコンの表示画面が「CH1」になっていることを確認のうえ、器具にリモコンを向けて操作してください。

表示画面のチャンネル表示が「CH1」

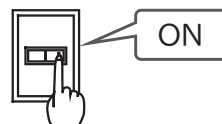


1台のリモコンで2台以上の器具を別々に操作する場合

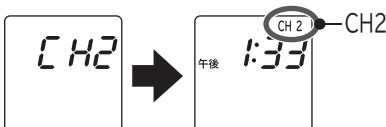
2台目の器具をチャンネル2に設定します。

1 2台目の器具のみ壁スイッチをONにする

※1台目の器具と2台目の器具が同じ壁スイッチの場合は、1台目のコネクタを外してください。
「P.18 4 コネクタを外す」をご参照ください。



2 リモコンの扉を開け、表示画面にあるチャンネル表示が「CH2」になるまで **CH切替** ボタンを長押しする



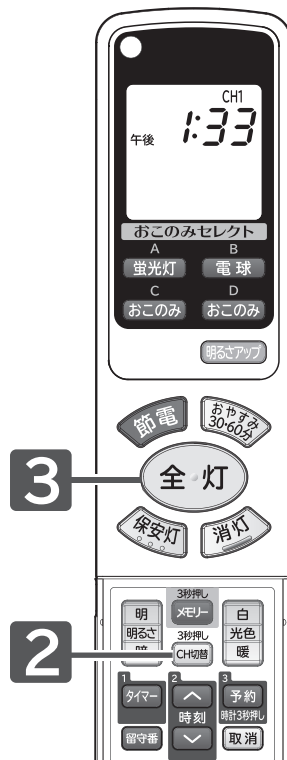
3 2台目の器具にリモコンを向け、**全 灯** ボタンを約3秒間、長押しする

- 器具から電子音が「ピピッ」と鳴り、設定の完了をお知らせします。



- チャンネル設定を変えたい器具以外も反応して、同時に設定されてしまう場合は、電源(壁スイッチまたはブレーカ)を切り、対象器具以外のコネクタを外してからチャンネル設定をしてください。

※コネクタの外しかたは→ (P.18)をご参照ください。



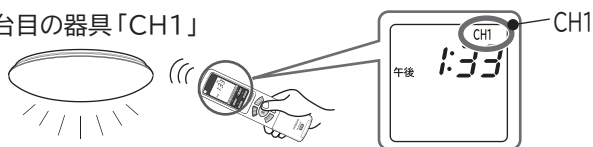
3台目の器具を「CH3」に設定するときは、同じ手順で設定します。

リモコンのチャンネルを切り替えて操作する

1台のリモコンで2台以上の器具を別々に操作する場合

- リモコンのチャンネル表示を器具のチャンネルに合わせてから、器具に向けて操作してください。

1台目の器具「CH1」



リモコンの表示画面にあるチャンネル表示が「CH1」になるまで **CH切替** ボタンを長押しします。

2台目の器具「CH2」



リモコンの表示画面にあるチャンネル表示が「CH2」になるまで **CH切替** ボタンを長押しします。

ご注意

- リモコンは、他の日立リモコン照明器具に対しても操作できますが、チャンネルの設定のしかたは、その商品の取扱説明書をご参照ください。
また、機種によってはリモコンで操作できる機能が制限される場合があります。

器具の取り外しかた

1

電源(壁スイッチまたはブレーカ)を切る

※ブレーカを切る場合、同一ブレーカに接続されている他の機器の電源も同時に切れますので、ご注意ください。



●器具の取り外しの際は、電源を切る

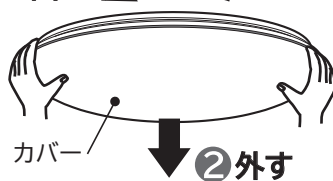
必ず守る

※電源を切らないと、感電の原因となります。

2

カバーを左に回して取り外す

① 左回し



② 外す



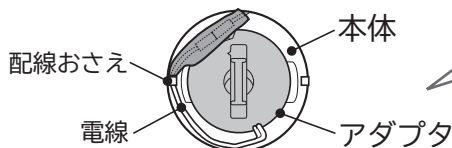
接触禁止

●消灯直後の器具は熱いので、時間をおいて本体が十分に冷えてから作業する

※やけどの原因となります。

3

アダプタ側の電線を、配線おさえから取り外す



●電線を取り外す際には、配線おさえに触れない

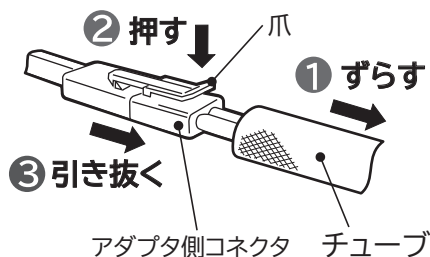
必ず守る

※手をけがする原因となります。

4

コネクタを外す

●チューブをずらし、アダプタ側コネクタの爪を押しながら引き抜いてください。



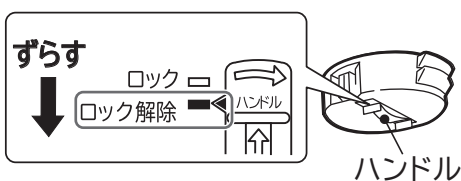
禁止

●コネクタを無理に引き抜いたり、電線を引っぱったりしない

※電線が断線し、感電、故障の原因となります。

5

ハンドルの「◀」を「ロック解除」の位置にずらす



6

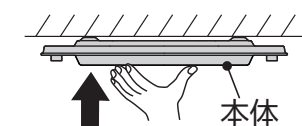
本体を外す

① 本体の中央部分を片手で天井面に押し上げてください。

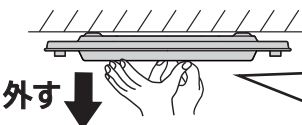
② 本体を押し上げながら、アダプタのハンドルを右に回し、アダプタの爪から本体が外れることを確認してください。

③ アダプタのハンドルを右に回したまま、ゆっくりと本体を下げ、アダプタから外してください。

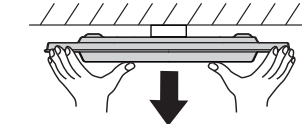
④ アダプタから本体が外れたら、ハンドルから手をはなし、両手でゆっくり本体をおろしてください。



① 押し上げる



③ 外す



④ おろす



必ず守る

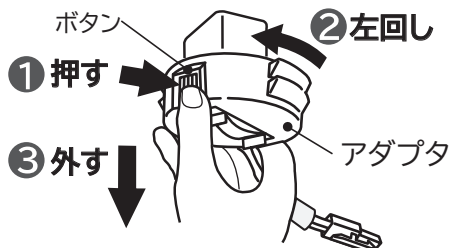
●本体が落下しないように確実に本体を押さえながら作業する

※手を離すと本体落下によるけがの原因となります。

7

アダプタを外す

●ボタンを押しながら左方向に回してください。



禁止

●アダプタを無理に回さない

※角形引掛シーリングなどの破損の原因となります。

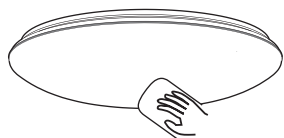
※器具の取り付けかたは → (P.6~7)をご参照ください。

お手入れ

●明るく安全にご使用いただくために、定期的にお手入れをしてください。

器具のお手入れ

- 器具が虫やほこりなどで汚れたら、乾いた柔らかい布で軽くはたき落としてください。
- 汚れが落ちない場合は、柔らかい布を石けん水に浸して、よくしぼったのちふき取り、乾いた柔らかい布で仕上げてください。
石けんとは天然油脂を原料としたものです。
(商品表示が「石けん」であることを確認してください。)



- お手入れの際は、電源(壁スイッチまたはブレーカ)を切る

必ず守る ※電源を切らないと、感電の原因となります。



禁止

- みがき粉・ベンジンなどの揮発性のもの・合成洗剤・化学ぞうきんでふいたり殺虫剤をかけたりしない

※割れ、傷、変色および落下によるけがの原因となります。



みがき粉



ベンジン



合成洗剤



化学ぞうきん



殺虫剤

器具取り扱い上のご注意



接触禁止

- 点灯中および消灯直後は、器具が熱くなっているの
で、触らない

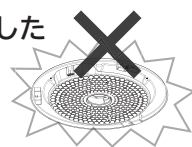
※やけどの原因となります。



禁止

- カバーを外した状態で点灯したLED光源を直視しない

※目を傷めたり、目に悪影響を及ぼすおそれがあります。



お困りのときは

●もしこんな現象が起きたときは・・・
故障と思われる前に下の表にしたがってお調べください。

このようなときは	ここを確認してください	直しかた	ページ
消灯した	●おやすみ30・60分が設定されている。	●再度点灯してください。	16
明るさが変わった	●短い停電があった。	●短い停電で、壁スイッチの操作のように「点灯状態を切り替える」機能が働く場合があります。再度点灯してください。	10
リモコンを操作しても点灯しない	●壁スイッチが OFF になっている。	●壁スイッチをONにしてください。	3
	●リモコンを壁掛け用ホルダーに入れたまま使用している。	●リモコンを壁掛け用ホルダーから取り出して、器具に向けて操作してください。	3
	●コネクタがきちんと差し込まれていない。	●コネクタを確実に差し込んでください。	7
	●リモコンの乾電池が間違っている。	●乾電池を正しく入れてください。	9
	●乾電池が寿命になっている。	●新しい乾電池と交換してください。	9
	●器具本体とリモコンのチャンネルが合っていない。	●チャンネルを正しく設定してください。	17
リモコンを操作しても器具から音がしない	●点灯状態は切り替わるが器具から音がしない。	●リモコンで消灯し、壁スイッチがONの状態から、リモコンの明るさ(暗)ボタンを約10秒間長押ししてください。	10
リモコンの表示画面が点滅する	●乾電池の残量が少なくなっている。	●新しい乾電池と交換してください。	9
壁スイッチを操作しても点灯しない	●ブレーカが切になっている。	●ブレーカを入れてください。	—
	●コネクタがきちんと差し込まれていない。	●コネクタを確実に差し込んでください。	7
タイマー予約・留守番が作動しない	●リモコンを、器具が作動する範囲内に置いていない。	●リモコンを器具の真下付近に置き、置いた場所から作動するか確認してください。	3
点灯状態が次々切り替わる	●店頭展示状態(デモモード)に入っている。(数秒おきに調光・調色が繰り返され、リモコンで消灯しても、しばらくすると同様の現象が生じる)	●リモコンで消灯ボタンを押して電子音が鳴った後、電子音が「ピピピッ」と鳴るまで約10秒間長押ししてください。保安灯などを点灯し、約30秒間変化がないことを確認してください。	—
勝手に明るさが変わる	●店頭展示状態(デモモード)に入っている。(点灯中、勝手に明るさが変わる(明るさアップ状態に切り替わる)。リモコンで消灯しても、しばらくすると同様の現象が生じる)		
リモコンで消灯していたが、勝手に点灯した	●2秒以上の停電があった。	●リモコンで消灯していても、2秒以上の停電後に電源が復旧した際は、リモコンで消灯する前の状態で点灯します。	10
	●店頭展示状態(デモモード)に入っている。(リモコンで消灯しても、しばらくすると勝手に点灯する)	●リモコンで消灯ボタンを押して電子音が鳴った後、電子音が「ピピピッ」と鳴るまで約10秒間長押ししてください。保安灯などを点灯し、約30秒間変化がないことを確認してください。	—

上記の表にしたがって調べても直らない場合は、お買い上げの販売店などにご相談ください。

※万一、煙が出たり、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに電源を切り、異常状態がおさまったことを確認してから、お買い上げの販売店に、器具の型式(本体の器具銘板に表示)と現象を連絡のうえにご相談ください。

仕様

この製品は日本国内家庭用です。電源電圧や電源周波数の異なる海外では使用できません。また、アフターサービスもできません。

型式	仕様	消費電力 (明るさアップ時)	定格消費電力 (全灯時)	定格電圧	定格周波数	保安灯点灯時 消費電力	消灯時 待機電力
LEC-AH1470K (～14畳)		47.1W	38.3W	交流 100V	50/60Hz 共用	約1W	1W以下
LEC-AH1270K (～12畳)		42.8W	34.8W				
LEC-AH1070K (～10畳)		38.4W	31.4W				
LEC-AH870K (～8畳)		33.2W	27.0W				

- この器具はリモコン機能付き器具のため、リモコンで消灯した状態では上記の待機電力を消費しています。
長時間ご使用にならないときは電源(壁スイッチまたはブレーカ)を切り、節電を心がけてください。
ブレーカを切る場合、同一ブレーカに接続されている他の機器の電源も同時に切れますので、ご注意ください。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのあと、大切に保存してください。なお、保証期間内でも次の場合には有料修理にさせていただきます。

- (イ) 使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障または損傷。
- (ロ) お買い上げ後の取付場所の移動、落下、引っ越し、輸送などによる故障または損傷。
- (ハ) 火災、地震、風水害、落雷、そのほか天災地変、塩害、公害、ガス害(硫化ガスなど)、異常電圧、指定外の使用電源(電圧、周波数)による故障または損傷。
- (ニ) 一般家庭用以外《例えば業務用などへの長時間使用または車両、船舶へのとう載》に使用された場合の故障または損傷。

保証期間	お買い上げ日から、 LED光源基板・電源基板：5年、本体：1年 です。(詳しくは保証書をご覧ください)
------	---

- 24時間連続使用など、1日20時間以上の長時間使用の場合は、上記の半分の期間とします。

保証期間中は	修理に際しましては、保証書をご提示ください。 保証書の規定に従って、修理させていただきます。
--------	---

保証期間が過ぎているときは	修理して使用できる場合には、ご希望により 有料で修理させていただきます。
---------------	---

使用中に異常が生じたときは

「お困りのときは」→ (P.20)をご確認のあと、それでも故障と思われる場合には、ご自分で修理をなさらないでお買い上げの販売店にご相談ください。

- 修理を依頼されるため、製品を販売店にお持ちの際は、アダプタ、リモコンも一緒にお持ちください。

「ご相談窓口」

日立家電品についてのご相談や修理はお買い上げの販売店へ

なお、転居されたり、贈物でいただいたものの修理などで、ご不明な点は下記窓口にご相談ください。
※下記窓口の内容は、予告なく変更させていただく場合がございます。

商品情報やお取り扱いについてのご相談窓口	
TEL	0120-3121-11
携帯電話・PHSから	050-3155-1111 (有料)
FAX	0120-3121-34
(受付時間)9:00~17:30(月~土)、9:00~17:00(日・祝日) 年末年始は休ませていただきます。	

修理に関するご相談窓口	
TEL	0120-3121-68
携帯電話・PHSから	0570-0031-68 (有料)
FAX	0120-3121-87
(受付時間)9:00~19:00(月~土)、9:00~17:30(日・祝日)	

- 「持込修理」および「部品購入」については、上記サービス窓口にて各地区のサービスセンターをご紹介します。
- ご相談、ご依頼いただいた内容によっては弊社のグループ会社に個人情報を提供し対応させていただくことがあります。
- 修理をご依頼いただいたお客様へ、アフターサービスに関するアンケートハガキを送付させていただくことがあります。

お知らせいただきたい内容

- 1.型式：LEC-AH1470Kなど
- 2.症状：できるだけ詳しく

補修用性能部品の保有期間

この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後6年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

部品について

修理の際、弊社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。修理のために取り外した部品は、特段のお申し出がない場合は、弊社にて引き取らせていただきます。

転居されるとき

- ご転居により、お買い上げの販売店のアフターサービスを受けられなくなる場合は、前もって販売店にご相談ください。ご転居先での日立の家電品取扱店を紹介させていただきます。
- 電源周波数の異なる地区へのご転居に際しても、部品の交換は不要です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または、「ご相談窓口」(下記)にお問い合わせください。

修理料金の仕組み

修理料金=技術料+部品代+出張料などで構成されています。

技術料	診断、部品交換、調整、修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器などの設備費、一般管理費などが含まれます。
部品代	修理に使用した部品代金です。そのほか修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金を頂く場合があります。



〒105-8410 東京都港区西新橋2-15-12

電話 (03) 3502-2111